

横田基地 UH-1N「ヒューイ」の退役式を举行 *Yokota bids farewell to UH-1N Huey*

September 19, 2025

By Senior Airman Natalie Doan
374th Airlift Wing Public Affairs

9月5日、横田基地で第374空輸航空団が主催するUH-1N「ヒューイ」退役式が開かれ、第459空輸中隊ヘリコプターの最終飛行が行われた。式典には同航空団や航空自衛隊の隊員が集い、同機体の長年の活躍を見届けた。

式典では、第459空輸中隊教官フライトエンジニアのケイリ・ロドリゲス上級空兵が、出席者100人以上を前にUH-1Nの歴史を紹介し、中でも機体番号69-6614に焦点を当て、ベトナム戦争から現在に至るまでインド太平洋地域で果たしてきた役割を振り返った。

「『テイル・ワンフォー』は、懐かしい記憶を思い起こさせてくれる。世の中が変わり続ける中でも、UH-1Nは就役当時と同じ信頼性を保ち続けている」とロドリゲス上級空兵は語った。

1980年に横田に配備されて以来、UH-1Nは患者輸送や政府要人輸送など幅広い任務を遂行してきた。2011年の東日本大震災では「トモダチ作戦」に参加し、偵察飛行や福島第一原発事故後の低高度放射線測定などで重要な役割を果たした。

当時パイロットとして作戦に参加した、在日米軍および第5空軍司令官付副官のサミュエル・シャンバーグ中佐は次のように振り返った。

「地震と津波の直後に福島上空を飛行した時は胸が締めつけられる思いだった。目に映る被害の大きさから、人々の生活が完全に一変したことが容易に想像できた。何としても力になりたい、その一心だった。12時間、16時間、時には20時間に及ぶ任務も、人々がもっと困難な状況に直面していることを思えば苦にもならなかった」

第459空輸中隊での運用は終了するが、UH-1Nは今後も米本土で米空軍地球規模攻撃軍団の任務を担い続ける。ニューメキシコ州カートランド空軍基地のUH-1N訓練校も引き続き存続し、新たな搭乗員の育成にあたる。

ロドリゲス上級空兵は間もなく同訓練校で教官として勤務する予定で、ヒューイはこれからも彼女のキャリアの一部であり続ける。

「幸いUH-1Nと完全に別れる訳ではない。米国でこれからもヒューイに乗り、次世代のフライトエンジニアを育てていく」と語る。

式典の締めくくりとして、第459空輸中隊司令トーマス・ノルタ中佐は、運用してきた隊員と機体の功績を称え、「以前から言われているように、横田の第459空輸中隊(部隊の愛称: センタウルス(Centaurs))のヒューイは、任務を静かに、卓越したプロフェッショナルリズムで遂行してきた。その機体そのものと同様に、確かな実績と影響力は、言葉以上に雄弁だ。戦略的意思決定に比類なき機動力をもたらし、最も困難な状況にある隊員やその家族を救ってきた」と振り返った。

